

「元の森に戻ってね」 上厚真小5年生が崩落斜面に植樹

上厚真小学校の5年生13人が9月28日、幌内地区を訪れ、胆振東部地震で崩落した斜面に学校で育てた苗木約30本を植樹しました。児童たちは、スコップで穴を掘り、丁寧に土をかぶせて森林再生を願いました。

崩落斜面の植林は、町やNPO法人きたネット、胆振林業青年部の主催です。胆振東部地震による森林への影響を実体験してもらい、森の再生を通じて将来の森の姿を感じてもらおうのが目的です。胆振林業青年部は、苗木を守るための鹿柵を提供。きたネットと森林の保全活動などを行っているNPO法人近自然森づくり協会(東京都)の関係者など約20人が指導しました。

児童たちは、地震の爪あとが残る崩落斜面を観察。

担当者から「高さ30mほどに育つのに50年以上かかります」と説明を受けて感心しきり。昨年7月から学校で育てたミズナラやヤチダモなどの苗をひと株ずつ斜面に移植しました。

井内宏磨校長は「森林再生の第一歩に関われることは、子どもたちにとって貴重な経験です。今後の町の復興のプラスになると思います」と語り、児童は「地震で無くなった森が元通りになって欲しい」と話しました。



町長に寄付の目録を贈った副会長理事の中井和子さんと堀井会長理事(左から)

北海道土地改良設計技術協会が寄付

一般社団法人北海道土地改良設計技術協会(札幌市、堀井健次会長理事)は10月12日、胆振東部地震の支援金500万円を町に寄付しました。

協会の寄付は、3年連続3回目。町を訪れた堀井会長は「被災地復興のために、有効に活用してください」と話し、町長に目録を手渡しました。宮坂町長は「皆さんの支援のおかげで、一刻も早い本格復旧を成し遂げます」とお礼を述べ、堀井会長に感謝状を贈りました。

土器づくり講座 高齢者に笑顔

町社会福祉協議会は10月6日、厚真児童会館の集会室で土器づくり体験講座を開き、参加した約20人は、笑顔浮かべながら粘土で器を作りました。

講師は、学芸員の乾哲也さんらが務めました。参加者は、粘土をこねてひも状にして重ね、何度も指先に水を付けながら凹凸を平らにして縄の模様を施しました。棒を使ってくぼみをつけたり突起を施すなど、いずれも個性的な作品に仕上がりに、満足な出来栄に笑顔でVサインする人もいました。土器は、ひと冬かけて自然乾燥し、来春、たき火で焼き上げて完成するそうです。



乾学芸員(左)から手ほどきを受けて土器をつくる参加者

厚真産ハスカップを使用した クラフトビール発売座談会



クラフトビールで乾杯する大川室長と宮坂町長と金丸本部長と、リモートで参加した東京の直営レストランの古川淳一さん(左から)



香り豊かな味に仕上がった厚真産ハスカップのクラフトビール

「北海道厚真町産ハスカップ(発泡酒)」の発売座談会が9月23日、札幌市の麒麟ビール株式会社北海道統括本部で開かれました。座談会には、北海道統括部長の金丸俊憲さんや宮坂町長、北海道の胆振東部地震災害復興支援室の大川祐規夫室長が出席し、来年の抱負や胆振東部地震の復旧・復興などについて意見を交わしました。

町内産のハスカップを原料にしたクラフトビール「北海道厚真町産ハスカップ」は、同社関係会社のスプリングバレーブルワリー株式会社が、昨年より製造しています。今年も9月4日から、東京都内にある関係会社の直営レストランで販売し、好評を得ました。

座談会の冒頭、クラフトビールで乾杯し、出席者はさわやかな味わいに笑顔をこぼしました。引き続き行われた座談会で、醸造の担当者は「社員自らが収穫したハスカップを使用しました。天候の影響で小粒だったようですが、濃厚な味や香りが好評で、予定より早く完売しました。来年度の醸造も検討したい」と前向きな意見を披露。宮坂町長は「復旧が進み不安は取り除かれつつあり、元の輝きを取り戻したい。都市部の人を受け入れ、分散型社会に取り組みたい」と今後の取り組みについて抱負を述べました。

あゆみ会が奉仕活動の受賞報告

ボランティアグループ「あゆみ会」が、今年度の第44回道新ボランティア奨励賞を受賞し、箱崎倫子会長らが9月24日、宮坂町長に受賞を報告しました。

公益財団法人北海道新聞社会福祉振興基金などが、道内で活躍するボランティア団体を毎年、表彰しています。今年、特別賞1団体と奨励賞9団体の合計10団体が受賞しました。箱崎さんは「地域のために頑張ります」と語りました。



宮坂町長に受賞を報告する副会長の幅田利子さんと会長の箱崎さん(左から)



車のキーを西野副町長に手渡すガバナーの福井さん(左)

国際ロータリークラブが 町に軽自動車寄贈

国際ロータリー第2510地区(北海道西部)ガバナーの福井敬悟さんらが9月25日、町役場を訪れ、軽乗用車1台を寄贈しました。

環境に優しいハイブリッドの四輪駆動車で、誤発進抑制機能などの安全装備も備えています。役場庁舎前でキーを受け取った西野副町長は「大切に使用させていただきます」と話し、福井さんは「業務に役立ててください」と話しました。

JAとまこまい広域 新米 50kgを寄贈

JAとまこまい広域(宮田広幸代表理事組合長)の代表理事専務、堀弘幸さんらが10月7日、町に厚真産の新米「さくら米」(ななつぼし)50kgを寄贈しました。

堀専務は「今年は、平年作以上の作柄で、高品質米ができました。豊穡が期待されます」と報告。宮坂町長は「すでに、何度か新米を食べましたが、非常においしかった。素晴らしいお米を届けていただきありがとうございます」と感謝しました。新米は10月15日、こども園と小・中・高校の学校給食として振る舞われました。



新米を贈るJAとまこまい広域の齊藤義幸理事と堀弘幸代表理事専務、宮坂町長、遠藤教育長(左から)

市街地の花壇を冬支度

町は10月15日、町商工会女性部(上田輝美部長)やボランティア団体・花フレンズの協力を得て、市街地にある86カ所の花壇の冬支度を行いました。

市街地の花壇は、環境美化などを目的に町が「市街地環境整備事業」の一環として手掛けています。今年は、6月からペチュニアなど約1,000株の花を植えて、花壇を管理してきました。冬支度には、約30人が参加し、花を抜き取って土をならし、来シーズンに備えました。



ドローンエキスパートアカデミー 北海道校とパートナーシップ協定



協定書を交わす宮坂町長と株式会社ドリームベース代表取締役社長の伊豆正則さん

町は10月16日、小型無人機ドローンの操縦技術や専門技術が学べるJUAVACドローンエキスパートアカデミー北海道校(札幌市、株式会社ドリームベース運営、昨年4月開校)とパートナーシップ協定を結びました。

同校と道内自治体の協定締結は初めて。同校は、フライト基本技術や測量基本技術など4つのコースを開設し、専門的な人材を養成しています。町は、ノウハウを受けながら、まちづくりや地域経済の活性化などを図ります。

協定書によると、町が主催する各種行事でドローンへの町民の理解や啓発の場を設け、防災訓練での連携や災害時での協力など、双方で連携を強化することなどが盛り込まれています。宮坂町長と同校運営会社の伊豆正則代表取締役社長が協定書に署名し、文書を交わしました。

厚真町地域おこし協力隊

企業研修型
地域おこし協力隊
川邊 晃さん(31歳)
出身地▽大阪市



―着任して1カ月が過ぎましたね
私も妻も大阪市の出身で、2人子どもがいます。妻は当初、移住に反対でしたが、1カ月たった今、すっかり気に入ったようです。自然を感じながら生活できる喜びというのでしょか。「来てよかった」って話してくれました。―
―転機のきっかけは何だったのですか

―Tベンチャー企業を起業して、デザインやシステム系の仕事をしています。コンクリートジャンブルの中で、自宅と会社との往復の日々で、遅い時間に帰宅することもしばしばありました。自分の将来を考えていた時に新型コロナウイルス感染症の影響が始め、会社通いからテレワークに変わりました。働き方の選択肢が増えたことが、大きなきっかけです。併せて、家族との時間も意識するようになりまし。

―着任して1カ月が過ぎましたね
知人を介して地域おこし協力隊の募集を知り、応募しました。空港から近くて海や山など自然環境に恵まれた環境に魅力を感じました。それと、幼少期に阪神淡路大震災を経験したほか、実家の熊本で両親が地震に遭うなど、被災経験が身近に多くいました。被災地・厚真で何かできないだろうかというのも動機の一つです。

―どのような生活を送っていますか
今年7月に設立された一般社団法人「Open Town(オープンタウン)厚真」に在籍しています。「企業研修型」というと、経験値の浅い人がノウハウを培って実践に備えるイメージがありますが、私の場合は即戦力というニュアンスが強いようです。町内には、地域おこし協力隊の経験者が、事業を展開したり事業の準備を進めています。それらの人々との人脈づくりを行っています。例えば、ファーム

―関係人口の創出には何が必要だと思いますか
厚真に来たいと思っている人たちが、一定期間滞在できる場所(宿泊施設)が必要だと思います。それと、町外に魅力を伝える情報発信も大切です。特にコロナ禍では、リモートワークしながら、豊かな自然の中で暮らしたいと思っている人は増えたと感じています。厚真は、その魅力を備えています。地域住民の皆さんと一緒に、新たな生活スタイルの提案ができるような事業を考えていきたいですね。

―関係人口の創出には何が必要だと思いますか
厚真に来たいと思っている人たちが、一定期間滞在できる場所(宿泊施設)が必要だと思います。それと、町外に魅力を伝える情報発信も大切です。特にコロナ禍では、リモートワークしながら、豊かな自然の中で暮らしたいと思っている人は増えたと感じています。厚真は、その魅力を備えています。地域住民の皆さんと一緒に、新たな生活スタイルの提案ができるような事業を考えていきたいですね。

町民の活躍



賞状を手に初の全国大会出場と入賞を喜ぶ佐藤さん

厚真スローイング 佐藤遙斗さん(厚真中学3年)

- ・第24回道央中学陸上競技選手権大会〔8月8日～9日、千歳市青葉陸上競技場〕種目:800m 成績:2位(標準記録突破、全国大会出場)
- ・全国中学生陸上競技大会2020〔10月16日～18日、日産スタジアム(横浜市)〕種目:800m 成績:決勝進出、全国7位入賞

●大会やコンクールなどの結果について情報をお寄せください。教育委員会 生涯学習課 社会教育グループ ☎27-2495 (毎月15日まで)

まちのアイドル

さいとう がくくん(3) こなや ゆらちゃん(3) さわぐち けいやくん(3)

3歳以下のお子さんの写真を募集しています。住所、氏名(ふりがな)、生年月日、性別、両親の氏名(ふりがな)、電話番号を明記の上、まちづくり推進課企画調整グループへ。〈メール〉kikaku@town.atsuma.lg.jp